

令和3年度 第6回函館市医療・介護連携多職種研修会

在宅・施設・病院

それぞれの多職種によるACPの在り方

【施設でのACP】



R3.10.16 旭ヶ岡の家 南部 雄一

本日の流れ

- ①施設の概要と看取り介護
- ②ACP 『特養』
- ③ACP 『レジダント』



河童公園



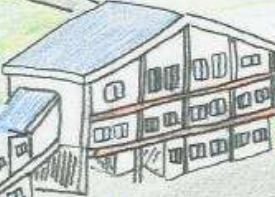
ボランティア通り

猫ハウス



特定有料老人ホームレジダント

喫茶ボンジュール・園廊



聖心メモリアル公園
(旭ヶ岡の家共同墓地)



熊道路

展望台



風車

ルルド公園



在宅ケアセンター
ハレル



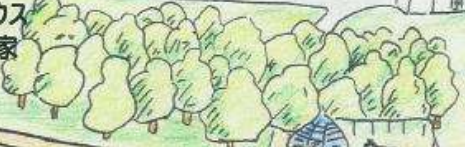
旭ヶ岡の家介護老人福祉施設

デイサービス
センター

太陽広場

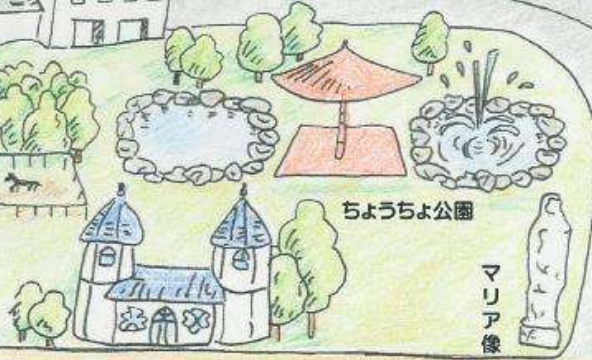
職員寮

生活支援ハウス
やすらぎの家



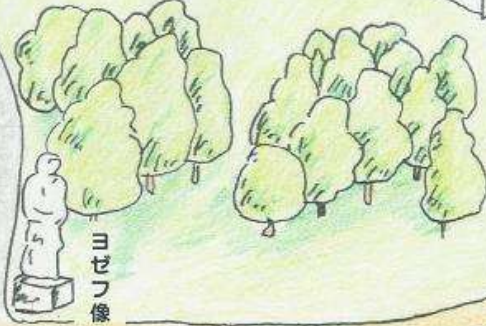
宮本通り

ちょうちん公園



マリア像

ヨゼフ像



西旭岡団地に至る



施設概要

創立から44年目
当初から看取り介護を実施



施設概要

現在までの看取り者数（物故者数）

662名

（R3年8月15日現在）



施設概要

R3年9月時点

	入居者数	平均介護度	在園期間	未取り者数 (R3年度)
特養	90名	要介護4	2.5年	10名
有料 レジダント	19名	介護認定者 5名	10年	0名

旭ヶ岡の家

創業者 の想い

ホームは最期まで過ごす我が家であってほしい

最期を迎える時まで自宅と同じよう
うに好きなきことをしなごら自分
しく過ごしてほしい

家族とともには人生の大事な総た墓り
取り、死と思っ骨堂、よる
なここと場、納いと骨堂、よる
葬儀が恐いと骨堂、よる
いう雰囲気を整える

出棺の様子



共同墓地



共同墓地（内部）



特別養護老人ホーム旭ヶ岡の家



【ケース概要】

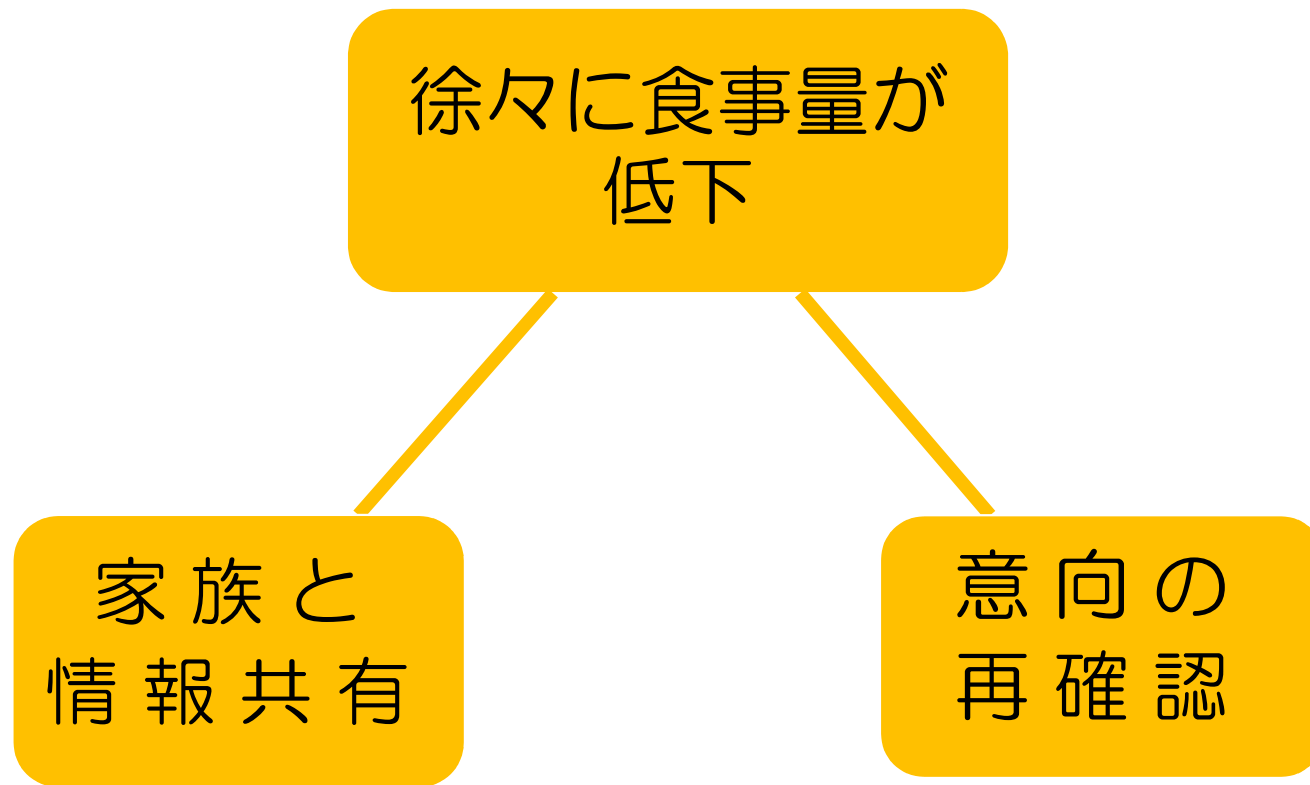
90歳 男性 要介護4
アルツハイマー型認知症



入所前の意向

- 本人：不明
- 家族：延命はしたくない。胃ろうは望まない。
穏やかに自然な形で施設で最期を迎えてほしい。

【経過】



【迷い・悩み】



91歳だし、もうこれ以上無理させたくない

最初は延命治療はしないと断っていたはず

家族間で 出た意見

長女に一任する

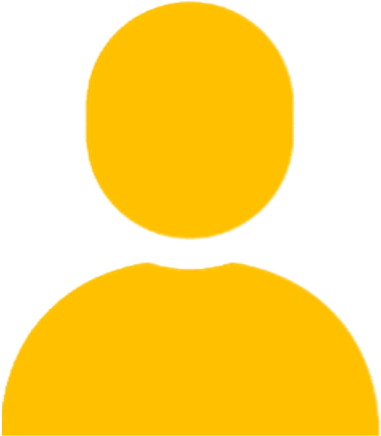
長女が胃ろうを希望するなら反対しない

【話し合い】

特養
事例

長女は、どう思っているか？

現状と今後についてどう思うだろうか？



本人が元気だったら、
なんて言うだろうか？

【話し合いの結果】



胃ろう増設は行わない
本人が喜ぶことを行う



特養における A C P の課題

本人の意思が
確認できない

普段の生活の質

【特養におけるACPの課題】

本人の意思が確認できない

- 家族等が本人の意向を推定できる
- // 推定できない
- 家族等がいない

【 A C P の支援（相手を知る） 】

本人にとっての

最善を一緒に考える

【ACPの支援（相手を知る）】

- ①過去（生活歴・価値観・口癖・家族との関わり）
- ②現在（現状をどのように受け止めているか価値観・想い・感情）
- ③未来（してほしくないこと・してほしいこと・どこで、どのように）

相手を知ることから始まる

【 A C P の支援（説明） 】

- 医療、介護を受けるメリットとデメリット
- 専門職としての見解
- デメリットへの対処方法

知識の差を埋めながら説明

【特養におけるACPの課題】

普段の生活の質

【特養でのACP（ポイント）】

普段の生活をいかに充実させられるか

人生の終わりをどこで、どのように迎えるか
についての自己決定を支援、尊重する。

有料老人ホームレジダント



A C P の地域での浸透

【有料老人ホーム・レジダントの取組】

- 懇談会で雑談
（不安なこと、これからしたいことなど）
- 終活の勉強会
（入居者と一緒に参加）
- 人生の最終段階についての個人面談
- 現時点での自分の希望を書面に残し、家族等と共有

人生の最終段階に向けての準備 = ACP



その時に備えることで、楽しく安心した生活の中で「死」への準備をする。

備える



ご清聴ありがとうございました。